

HIKARI SONG GIFT ～第四章～

活動報告



HIKARI SONG GIFTとは

2015年に起きたネパール大地震。

同じ震災を経験した日本から、電力が不足しているネパールへ、1000個のソーラーランタンを届けることを目標とし、これまで日本でライブ活動などを通してこの活動を続けてきました。協力して下さった義捐金で585個(初年度に295個、2年目100個、3年目88個、4年目102個)の持ち運び可能なソーラーランタンを贈ることができました。

ランタンはチャリティフェスティバル中は、流れる音楽と共に、キャンドルライトとして使われます。そして、フェスティバルの後は、日常生活において電気の代わりとして使用します。夜道を歩く道を照らし、勉強をする本を照らし、明かりが必要なさまざまな状況において、ネパールの方々の頑張りをサポートとなるよう贈っています。

また、このランタンは、ただのランタンではなく、同じ震災を経験した日本とネパールを繋ぐ希望のヒカリになってほしいと願っています。

事実、フェスティバルの翌日にランタンを持った子どもたちが、「昨日楽しかったね」と言って、ランタンを持って走り回っていた姿が、まさに希望のヒカリでした。



活動をはじめたきっかけ

この活動を始めたのは、東日本大震災が大きなきっかけでした。

震災当時、ふるさと宮城の変わり果てた光景をTV越しで見ながらも、どうすることもできなかった自分が情けなく、無力感に苛まれていました。その頃は、歌うことから遠ざかっていました。

そんな時、2015年に母が住んでいるネパールで大地震が起きたました。東日本大震災のことがずっと心残りだった私は、同じ被災国として何かをしたいと思い、震災直後のネパールに支援活動に行きました。

それから、私の母は、30年以上、ネパールで学資支援をしております。

幼女の頃は、私よりもネパールを愛してるように感じ、理解できない時もありました。

しかし、ネパールと関わる中で、母が愛するネパールを知りたいと思ったからでした。

PROFILE

佐野碧 (SANO AOI)

仙台出身シンガーソングライター



幼少期より世界各国を訪れ、異文化に触れる。

学生時代は野球に明け暮れ、リトルリーグで女子初の東北選抜に選ばれる。

大学卒業後、上京。インド音楽を学ぶ。彼女の声は世界的ボイストレーナー、グル・デブ・カマット師にも認められ、「魂の声」として評される。

作詞、作曲、プロデュースを自身で手掛け、その歌詞は、深い悲しみに寄り添いそっと背中を押してくれる。

ふるさとを襲った東日本大震災が大きく音楽性を変える。

地元東北と、ネパールでの支援活動を並行してして行い、毎年開催するチャリティフェスティバルは述べ5000人以上が参加。ゲスト出演したネパールの国民的人気番組

「Namaste TV」のYouTube再生回数は110万回を突破。

佐野碧 HP : <https://aoisano.com/>

【経歴】

- ・ 2ndアルバム「NAMIDA」をリリース。全国ツアーを開催(2017/10)
- ・ スペースシャワーTV「スペシャのヨルジュウに」出演(2017/10)
- ・ 女子プロ野球開幕戦 埼玉アストライア—京都フローラにて、故片平初代監督に捧げた曲「夢の星」を歌い上げる(2018/04)
- ・ ネパールのTV HIMALAYA TV「GOOD NEWS」に、HIKARI SONG GIFTのこれまでの活動が特集として放映(2018/05)
- ・ 日本テレビ「ZIP!」ハテナビコーナーにて、海外で有名な日本人として大々的に特集される(2018/05)
- ・ プロ野球 楽天—西武ライオンズ戦にて 国家斉唱を務める(2018/9)
- ・ 3rdアルバム「夢」をリリース。アルバム収録曲「ありがとうと書いて夢」が居酒屋チェーン「村さ来」TVCM曲に採用(2019/01)
- ・ 野球 日本代表公式サイト 侍ジャパン内「世界の野球」にてHIKARI SONG GIFTの活動が掲載(2019/04)

2018-2019年 HIKARI SONG GIFT 活動報告

2018年

6月 HIKARI SONG GIFT Vol.3 後夜祭 東京・仙台・大阪公演を開催

8月 ネパールフェスティバル in 東京 駒沢オリンピック公園にゲスト出演



10月 ネパールチャリティーコンサートに出演・感謝状授与



2019年

3月 河北新報 河北春秋に活動が掲載

4月 野球 日本代表公式サイト内「世界の野球」にて掲載



2018-2019年 HIKARI SONG GIFT 活動報告

3月 HIKARI SONG GIFT Vol.4 前夜祭 東京・仙台・大阪公演を開催



写真左:ネパール野球 代表 Iswor Thapa選手
写真右:ラリグラスの会 代表 小林 洋平 さん

4月 大本山永平寺別院 長谷寺にて第2回国際文化交流会にゲスト出演



写真右:シュレスタ光明さん

第4回目のフェスティバル開催のきっかけ

今回はドラカという村で、開催することになりました。きっかけとなったのは、前回のフェスティバルに帯同した新聞記者のArjun pakhrinさんが、私の生まれ育った村でも是非このフェスティバルを開催して欲しいと仰ってくれたからでした。

Arjunさんのお話によると、ドラカにある彼の村は、谷にあり、地震でほとんどの家屋が全壊・全滅したとのことでした。

そして、知人や親戚の方々が幾人もお亡くなりになったとのことでした。

「故郷を元気つけたい」Arjunさんの言葉からは、熱意が伝わってきました。

このような経緯を経て、現地スタッフの視察を行い、第4回目の場所となりました。



Arjun Pakhrinさん

ネパール日記

4月17日「ネパール到着」

税関では、40分以上停電がありました。

再びネパールに来たんだと改めて感じました。

1時間以上かけてネパールに入国した喜びは大きいものでした。



4月18日「チャリティフェスティバル HIKARI SONG GIFT Vol. 4 の準備」

まずは街を散策。

2016年に、第一回フェスティバルを開催した世界遺産でもあるバクタプールを見て歩きました。1つ1つの景色に当時の情景が思い出されました。

ネパール大地震以降、仮設住宅で暮らしていた方々は、以前より減っていました。

被害にあった建物の修繕工事は、少しずつ進んでいました。

その後、ドラカで行うHIKARI SONG GIFT Vol. 4の打ち合わせをしました。

午後には必要なものの買い出しをしました。



4月19日「出発」

朝の静けさの中、荷物の積み込みをし、カトマンズを出発。

いつもはバイクでごった返すカトマンズ市内も朝は交通量が少なく、窓から見える景色はとて新鮮でした。

山道になるにつれ、だんだん道も険しくなりバスの揺れもはげしくなりました。

道中は、雨が降り続け、翌日のフェスティバルが心配でした。

心の中で無事開催できることを祈りました。途中で何度か休憩をいれ、バスに揺られること約7時間。ドラカ群にあるチャリコットに到着



その頃には雨があがり、バスを降りて歩いていると、雲間からヒマラヤ山脈が、ドン！とそこにそびえ立っていました。

思わずワーッと声が出て、とても感動しました。

チャリコットからのヒマラヤは、とても近くに見えました。

そして、翌日使用する音響機材を確認しに、ジープで移動。



ネパール現地の担当者からは、音響機材は問題ないと言われていましたが、念のため確認をしに行くことに。

音響屋さんへ行くと、まだ準備をしていなく、最初は唖然としました。

やはり直接来てよかったと少しホッとしました。

一つ一つ必要な機材を目視で確認し、ネパールスタッフとトラックに積み込み完了。

その頃にはヒマラヤも雲間に隠れていました。

チャリコットにあるホテルに戻り、翌日開催するフェスティバルに向けて、スタッフ一同心を一つに。

4月20日「本番」

チャリコットから車で1時間。道とは言えない道をジープで移動。

途中、あまりの道の悪さに、何度も停まり、石や岩を移動しながらソクラ村を目指しました。

到着すると、すでに村の方々がフェスティバルの準備に取り掛かっていました。

若い男性たちがステージを組み立て、立派なステージが作られていました。

村の方々は歓迎してくれ、なごやかな雰囲気での準備がはじまりました。



「トラブル」

音響セッティング、リハーサルをしようと準備をしていると…
機材トラブルが発生。

前日確認した音響システムが正常稼働しないというアクシデント…

ミキサーの一部が壊れており、前日に目視確認だけでなく、動作確認までしなくては
なかったのかと反省しながらも、焦りがつのりました。

現地音響スタッフに、ミキサーが正常稼働しないのは何故か問う。

笑顔で何も答えない現地音響スタッフ…

昨年 of HIKARI SONG GIFT で、ネパール文化に合わせようという意識が強すぎて、思うこと
を言わず後悔したことを思い出しました。

なんとか改善策がないのか、少しそこでもめる…

プロフェッショナルな仕事とは何か…

私はどこまでネパールの目の前の方に合わせた方が良いのか…

日本人チームも集まってきて、予備で持ってきたスピーカーを繋げることに。

安堵したやさき、そのスピーカーも鳴らないというアクシデント。

おそらく、道中の道の悪さで、スピーカーが壊れてしまったのだろうと推測。

すぐさま機械に強い日本の方々、スピーカーを分解し、修理を始めました。

その様子をネパールの若者たちも「何をしてるのだろうか？」といった表情で見っていました。

その間、近くに他の音響屋さんがないのか、まだ時間もあったので、問い合わせしてほし
いをお願いをしました。



すると…現地の50代くらいの男性が、

「僕同じスピーカーをもってるよ」

え??

その言葉を聞いて、みんなが一斉に振り返りました。

しかしまだ物が来るまで安心はできない。

数分後…

本当に同じスピーカーがステージの上に並びました。



嬉しかった～。

そんなこんなでイベントの準備がなんとか整いました。

さて、いよいよ始まります。

場所を移動して、まずは、8畳ほどの部屋に案内されました。ろうソクだけが灯った不思議な空間。祈祷師のお祈りです。



「祈祷」

HIKARI SONG GIFT vol.4が成功するよう、そして、私たち日本人のための歓迎のお祈りです。その祈りはとても神秘的でした。

お香の香り、ロウソクに灯される火、唱えられる祈祷の言葉。言葉と言葉が重なり、まるでお経を聴いてるかのよう。

途中、いわゆるトランス状態のように見えるご老人と若い女性が入り、あぐらの姿勢で振動しながら何かを取り払うかのようにお祈りをされていました。

後で現地の方に聴いたお話によると、祈祷師になったというお告げが来た時、導かれるようにこのような状態になると言っていました。その後、祈祷師になるためにいくつかの試験的なものが繰り返し行われ、ようやくなれるということです。

祈祷師になる条件は血筋ではないということも言っていました。

お祈りの時間は、本当に衝撃的で感動的なものでした。そこに流れる時間はまさに「神」が宿る時間というのも肌で感じました。

祈祷師のお祈りの後、外に出て、彼らの音と歌によるパフォーマンス。日本人チームを歓迎してくれました。

そして、フェスティバルがはじまりました。



「セレモニー」

村長さんのご挨拶からはじまり、日本人チームがステージにあがりました。

ネパールからは、ゲストの女性シンガー、アンジュ・ラマさんが素晴らしいパフォーマンスで会場を盛り上げました。

その後、なにやら、村の方々が落ち着かない様子。

なんと、ドラカ群の市長が会場にいらっしやいました。

この村に市長がきたのは初めてのこと。

村の方々は大いに喜び市長を歓迎。

そして市長のお話が始まりました。

市長がソクラ村にいくつかの約束をして下さりました。そのお話は、これまでヒカリの当たっていなかったソクラ村にとって、本当にヒカ리가当たるお話でした。



Anju Lamaさん



ドラカ 市長 Bharat Kcさん



MC Heeroes Lopchanさん

イベントは更なる盛り上がりを見せました。

ソクラ村は、タマン族という民族が多くいる場所で、タマン族のダンスパフォーマンスや歌が繰り広げられました。

民族衣裳に身を包み、その色鮮やかな衣装を見ているだけでも異空間にいる感覚でした。

伝統的な一つ一つのパフォーマンスはとても新鮮で、素晴らしいものでした。

そして、若者からお年寄りみなが踊りました。



写真左: Arjun Pakhrin

そして、私（佐野碧）の出演です。

1曲目はオリジナル曲「Who I am?」という楽曲。

日本語ですが、サビの歌詞「I am free」という箇所では、村の方々は歓声を上げ盛り上がりました。



太陽も少しづつ落ちて夕陽に変わったころ、

HIKARI SONG GIFT テーマソング「千の灯火～Shanti」です。

事前にお一人お一人に渡したソーラーランタン(ヒカリ)が、輝いていました。



あの時のみんなの表情が忘れられません。

まるでみんな子どもに戻ったような無垢な笑顔。

ヒカリは本当に希望だと感じました。

最後は、ネパールの国民的フォークソング「レッサンフィリリ」をみんなで歌いました。

私もステージから降りて、この大地の上で一緒に踊り、歌いました。



その後もオリジナル曲を歌いました。

日本語なのに、言葉を越えて、私の楽曲聞いていた？と尋ねたくなるように、サビではいつも私の気持ちに共鳴するように、歓声が上がりました。

この瞬間、なにも線引きがない、言葉にできない一つになれる時間。そう感じました。



4月22日「チャリコット→カトマンズ戻る・さよならparty」



フェスティバルを振り返る。フェスティバルの一人一人の感想は感慨深いものでした。

笑顔と共に出てきた言葉は、村の人々が喜んでくれたこと、楽しかったこと、一生懸命この日に向かって走れたこと などなど。

また、ネパールチームからの意見で、日本人のチームワークや、細かなこだわりをみて、「とても勉強になった、僕も誰かに伝えたい」と、現地で共にステージを作り上げた青年がそう言ってくれました。なんだか嬉しい気持ちになりました。

たくさん大変だったこともあったけれど、一同の顔は、前向きで笑顔が溢れていました。日本チームも、ネパールチームも熱く語り合いました。

共通していたのは、来年も一緒にこのフェスティバルに向けて頑張っていこうという言葉、そして熱い気持ちでした。

自然と、「来年」という言葉が出ていたのも嬉しかったです。

第4回目を迎えたチャリティフェスティバル。日本の応援して下さる皆様、そして現地ネパールの方々がいなければ、このフェスティバルは出来なかった。

第1回目からずっと、ネパールスタッフは同じメンバーであり、彼らの尽力は毎回ながら感激しております。

彼らがネパールで継続する道を繋いでくれています。

これからも、日本、ネパール共に歩もう！

とフェスティバルで感じたことを分かち合い、目標とそれぞれの意識を固める時間となりました。

メディア出演

PRIME TIMES TV



写真右 : Rohan Shrestha Ronさん



Nagar iNews YAMBHU TIMES



NEPAL MANDALA TV



ネパール族のテレビ番組に出演しました。番組はネパール語となります。
ネパールの人気曲「Rajamati kumati」を練習し、歌わせていただきました。

Nepal Aaja



写真右 : Suman Koiralaさん

Nepa TV



取材やテレビ出演で、日本とネパールの話をできたことが嬉しかったです。プロジェクトをはじめた頃は、なかなか信頼を得るまで時間がかかりましたが、こうして継続していくうちに、繋がりが生まれることも嬉しかったです。

学校訪問

ソクラ村のそばにあるディルタンガという場所にある5年生までの公立学校にて、歌を歌わせていただきました。文房具も学校に寄付（Daisuke Kiyamaさんよりお預かり）し、大変喜んでくださりました。



メディアに掲載されたHIKARI SONG GIFT vol. 4の市長のお話

以下、YAMBHU TIMES にニュースとして掲載された内容です。

日本とネパールを繋ぐHIKARI SONG GIFTのイベントにより、今まで注目されなかったドラカにあるソクラ村に、初めて市長が訪れました。

大変村の人は喜びました。

ソクラの電力問題は、水力発電所が近くにあるが、ソクラまではちゃんと行き届いてなく、人々のストレスはたまっていました。

それを、電気が来るように検討すると、市長が約束してくれました。

これまで、なかなか気にかけてもらえない場所、ソクラ村でしたが、このイベントにより、市長が初めて来村し、今後、この村のために計画を立て、より良くしようと約束してくれました。

女性にも、特別に何かをすることを検討していると述べました。

また、経済的に大変な人に対して出稼ぎではなく、自立できるように、農業で仕事ができるようにサポート(教育)することを約束しました。



イベントを終えて

今回はヒカリはもちろんのこと、このイベント自体の意義を強く感じられる時間となりました。

良い意味で、外国人だからこそ出来たイベントであったとも感じます。

地元の方々を中心にイベント、ステージを作り上げ、日本人チームはそれをサポートする形で、共にイベントを作り上げることができました。

そして、なんとと言っても初めてこの村に市長が来て下さり、これまでヒカリが当たっていなかったソクラ村にヒカリが当たったことは、私も大変嬉しかった。

市長が村についてお話しをしている時の村人たちの真剣で嬉しそうな表情は、今でも心に残っています。

また、ソクラ、ケラップ、ダダガオンの3つの村が集まってイベントをしました。このように近隣の村が集まり、タマン民族の伝統の歌やダンスを通して過ごす時間の大切さも感じました。

そうしたイベントも初めてだったようで、子どもからご老人の方々まで共に楽しみ伝統を継承する良い機会になったように感じました。



立場を超えた先にある繋がり

外国人だから出来ることがある。だからこそ、ここに住む人を中心にイベントを作り上げたい。

わたしは日本人であること。それは周りから見る立場であって、わたしとイコールではないものです。

しかし、ネパールでは、責任感やイベントを成功させたい思いも高まり、立場がいつのまにか私とイコールになってしまうときがありました。

帰国してから思うこと、それは日本人としての意識が強すぎたことです。

形にとらわれて、自分の立場にとらわれて…本当はもっと繋がれたらんじゃないか…
そんな葛藤がありました。

ライブ前のリハーサルの時、ミキサーが正常稼働せず、現地音響さんともめた話をさせてください。

この時は、ある意味で、ネパール人、日本人としての立場はなく、良い意味で、今思う気持ち伝えることができました。しかし、立場はなくとも、プロフェッショナルならしっかりするべきだ。という自分の枠で相手を見ていたことに気づきました。

ただ目の前の方と、わかり合いたいのに…

海外へ行くと、より自分がとらわれていることがわかります。

ふと、ネパールにあるヒマラヤを見て思いました。

きっとヒマラヤは、自分のことを壮大だと思っていないだろう。

ただ、そこにあるだけ。

立場を越えて枠を越えて今後もっともっと多くの方々と繋がったいくイベントにしたいと思いました。日本とネパール、フェスティバルの回が増すごとに、

自分を知り、「繋がり」について毎回発見し、深く感じます。

来年も、このフェスティバルは開催予定です。

改めて、共に歩んできてくださったみなさま、

大変ありがとうございました！

おかげさまで、4回目を無事に終えることができました。

たくさんの笑顔に繋がりました。

佐野 碧



HIKARI SONG GIFTご協力・ご参加のお願い

HIKARI SONG GIFT は来年も開催予定です。

※このフェスティバルの設営・音響などすべて現地ネパール人スタッフに依頼

※必要経費以外(弊社スタッフ・日本人ボランティア渡航費等)は自己負担

※チャリティーフェスティバルのため、入場料はフリー

確実に届く支援です。引き続きソーラーランタンも集めていきますので、ご協力、ご参加をお願いいたします。

<ゆうちょ銀行>

口座名:ヒカリソングギフトネパール支援の会

(ヒカリソングギフトネパールシエンノカイ)

店名:018(ゼロイチハチ)

預金種目:普通口座

口座番号:9399389



協賛

- ・ Saino Nepal
- ・ ITで日本を元気に！
- ・ 三菱製紙株式会社
- ・ 株式会社イチイ
- ・ 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト
- ・ アイリスオーヤマ株式会社
- ・ 株式会社ランズ
- ・ YAMA
- ・ 日本ネパール友好協会
- ・ OTAFUKU OKONOMIYAKI
- ・ The Everest Coffee Mill

後援

- ・ 宮城学院女子大学
- ・ NPO法人 日本・ネパール文化交流倶楽部
- ・ 公益財団法人仙台観光国際協会
- ・ 株式会社ハートス
- ・ ユーディーエヌ合同会社
- ・ ランドマークホールディングス株式会社



HIKARI SONG GIFT special thanks

Yuko Sano、Raju Man Maharjan、Biju Gwayamaru、Dinesh Humagain、Arjun Pakhrin、
中村鉄弥、中村奈央子、岸本淳 (A-FILES)、Toshihiko Aiba、勝又允莉、
Dawa Sherpa (Virgo Sept)、Tat Hagsisaka、Daisuke Kiyama、荻原文彦 (風の旅行社)、
Sunil Kumar Shakya、山川雅弘、
and you!!!



自然農法と高地栽培だから美味しい！
 まろやかで軽やかな味わいをあなたに。
 ネパール国内第一号のコーヒー豆。
 お問い合わせ
 The Everest Coffee Mill
 Nepal : Keshar Mahal , Thamel, Kathmandu
 Tel: 977-1-4413959
 E-mail: info@everestcoffee.com.np
 日本: 東京都中央区日本橋箱崎町28-1
 Tel&fax: 03-3666-0244
 E-mail: n.a21326@gmail.com

ネパール初のお好み
 焼き屋さん
 (他日本料理も有)
 広島オタフクの許可
 を
 得て営業しています。



着心地の良い天然素材の服と、アウトドアウェアの製造販売を
 しております。(日本人常駐)
 オーダー受注致します。

お問い合わせ
 Yama Outdoor & Garments
 Geetanjali chowk, khushi-bu, Kathmandu, Nepal
 Tel: 977-9851219483
 E-mail: yamaoutdoor@gmail.com

We live on the earth



Cover photo by Atsushi Kishimoto